受
'19.12.15
付

SAJ 令和 2 総第 469 号
令和元年 12 月 11 日

加 盟 団 体 各 位

公益財団法人全日本スキー連盟
専務理事 矢 舩 保 典

公認スポーツ指導者制度の専門科目内容の改定について（通知）

平素から本連盟の事業にご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2019 年 4 月から日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度が改正になったことに伴い、本連盟の公認スポーツ指導者制度の在り方を検討してまいりました。

また、コーチ 1 からコーチ 4 まで段階的にレベルアップをする資格制度に変更になったことに伴い、SAJ としても専門科目のカリキュラムを改正し、競技者を育成するコーチ資格として位置づけ実施することになりました。

つきましては、下記のとおり制度に関する資料をお送りしますので貴連盟内で資格取得を検討されている方に周知いただければと思います。

なお、資格取得に関する詳細については、準備が整い次第 SAJ ホームページでも公開いたします。

記

1 同封書類
資料 1 公益財団法人日本スポーツ協会スポーツ指導者制度
資料 2 グッドコーチに向けた 7 つの提言
資料 3 パワーポイント資料
資料 4 スキー・スノーボードコーチ資格概要(ｺｰﾁ 1、ｺｰﾁ 2)・専門科目カリキュラム案

2 実施する資格区分
スタートコーチ ・・・ 実施なし
コーチ 1、コーチ 2 ・・・ 2020 年 4 月開始
コーチ 3 ・・・ 2021 年 4 月以降
コーチ 4 ・・・ 検討中

3 専門科目受講料(検定料含)について
コーチ 1 20,000 円（税込）
コーチ 2 40,000 円（税込）
※共通科目受講料、登録料等は日本スポーツ協会で定めています。

4 リフレッシュ研修について
都道府県体育協会又は日本スポーツ協会で実施する義務研修を 4 年に 1 度受講又は本連盟が指定する研修を 4 年に 1 度受講することに変更いたします（2020 年 4 月以降）。

以上

資料 No. 1

公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度

〈趣旨〉

1．公益財団法人日本スポーツ協会（以下「JSPO」という。）及びJSPO加盟団体等は、スポーツ文化を豊かに享受するというすべての人々がもつ基本的な権利を保障するため、「公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度」を制定し、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできるスポーツ指導者を公認スポーツ指導者として育成することにより、望ましい社会の実現に貢献する。

〈目的〉

2．この制度の目的は、次のとおりとする。

（1）公認スポーツ指導者によるスポーツ指導の体制を確立すること。

（2）公認スポーツ指導者として求められる資質能力（思考・判断、態度・行動、知識・技能）に関する科目を体系的に編成した講習会等により公認スポーツ指導者を育成し、その資質能力の向上を図ること。

（3）公認スポーツ指導者育成の基本コンセプト、3つの方針（受講者受入方針・養成講習会実施方針・資格認定方針）、資格の種類と役割及び権利と責務を明確にし、社会的信頼の向上を図ること。

（4）地域別、競技別、種類別等、公認スポーツ指導者相互の連帯を深め、活動促進を図ること。

〈公認スポーツ指導者〉

3．JSPO及びJSPO加盟団体等が育成する公認スポーツ指導者とは、スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタード[a]の考え方のもとに暴力やハラスメント等あらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる者である。

〈種類及び役割〉

4．公認スポーツ指導者の種類及び役割は、次のとおりとする。

（1）スポーツ指導者基礎資格

・スポーツリーダー

地域におけるスポーツグループやサークル等のリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる者

---

[a] プレーヤーズセンタード：プレーヤーを取り巻くアントラージュ自身も、それぞれのWell-being（良好・幸福な状態）を目指しながら、プレーヤーをサポートしていくという考え方。

（2）競技別指導者資格

ア．スタートコーチ

総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングアシスタント（指導補助）として、上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供する者

イ．コーチ１

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供する者

ウ．コーチ２

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等の監督やヘッドコーチ等の責任者として、安全で効果的な活動を提供するとともに、指導計画を構築、実行、評価し監督することと併せて、コーチ間の関わり及び成長を支援する者

エ．コーチ３

トップリーグ・実業団等でのコーチングアシスタント（指導補助）として、ブロック及び全国大会レベルのプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行う者

オ．コーチ４

トップリーグ・実業団・ナショナルチーム等のコーチングスタッフとして、国際大会レベルのプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行う者

カ．教師

クラブや商業・民間スポーツ施設等で幅広い年齢層の多様なスポーツライフスタイルを志向する会員や利用者に応じたコーチングを行うとともに、当該施設等の日常運営業務にあたる者

キ．上級教師

クラブや商業・民間スポーツ施設等における実技指導の責任者・チーフを担うとともに、当該施設等の企画・経営業務にあたる者

（3）メディカル・コンディショニング資格

ア．スポーツドクター

医師の立場からプレーヤーの健康管理、スポーツ外傷・障害の診断、治療、予防、研究等にあたる者

イ．スポーツデンティスト

歯科医師の立場からプレーヤーの健康管理、歯科口腔領域におけるスポーツ外傷・障害の診断、治療、予防、研究等にあたる者

ウ．アスレティックトレーナー

スポーツドクターをはじめコーチ等との緊密な協力のもとに、プレーヤーの安全・健康管理、スポーツ外傷・障害の予防、救急対応、アスレティックリハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニング等にあたる者

エ．スポーツ栄養士

地域におけるスポーツ活動現場や都道府県レベルの競技者育成において、スポーツ栄養の知識を持つ専門家として、プレーヤーの栄養・食事に関する専門的視点からの支援等、栄養サポートを行う者

（4）フィットネス資格

ア．フィットネストレーナー

商業・民間スポーツ施設等において、プレーヤーに対する相談及び指導助言を行うとともに、各種トレーニングの基本的指導等を主に職業として行う者

イ．スポーツプログラマー

地域スポーツクラブ等において、プレーヤーのフィットネスの維持や向上のための指導及び助言を行う者

ウ．ジュニアスポーツ指導員

地域スポーツクラブ等において、幼少年期の子どもたちに遊びを通した身体づくり、動きづくりの指導を行う者

（5）マネジメント指導者資格

ア．アシスタントマネジャー

総合型地域スポーツクラブ等において、クラブ会員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネジャーを補佐し、クラブマネジメントの諸活動をサポートする者

イ．クラブマネジャー

総合型地域スポーツクラブ等において、クラブの経営資源を有効に活用し、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう健全なマネジメントを行うとともに、クラブに必要なスタッフがそれぞれの役割に専念できるような環境を整備する者

〈養成〉

5．JSPO及びJSPO加盟団体等は、第6条第1号に定める公認スポーツ指導者として必要な資質能力を修得させるため、すべてのスポーツ指導者に共通して求められる資質能力に関する科目と、役割に応じて求められる専門的な資質能力に関する科目を体系的に編成し、前条各資格の養成講習会を実施する。

（1）養成講習会のうち共催により実施する講習会は、次のとおりとする。

ア．競技別指導者養成講習会（共催：JSPO加盟競技団体等）

イ．スポーツデンティスト養成講習会（共催：公益社団法人日本歯科医師会）

ウ．スポーツ栄養士養成講習会（共催：公益社団法人日本栄養士会）

エ．スポーツプログラマー養成講習会（共催：公益財団法人日本体育施設協会）

（2）JSPO及びJSPO加盟団体等は、第1条に定める趣旨に賛同する者で、養成講習会を通じて、スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードのもとに暴力やハラスメント等あらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通じて、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献する意欲がある者を、養成講習会の受講者として広く受け入れる。

（3）各養成講習会の運営方法、受講条件、カリキュラム内容、講習・試験の免除、審査等の詳細については、別に定める。

（4）講習・試験免除適応コース

別に定める講習・試験免除承認システムに基づき、所定のカリキュラムと同等の教育課程を設定していると JSPO 指導者育成委員会が承認した大学（学部・学科等）、専門学校、その他団体等を講習・試験免除適応コースとすることができる。

（5）スポーツ指導者養成コース

別に定める養成コース申請基準を満たすスポーツ関連団体等をスポーツ指導者養成コースとすることができる。

〈認定〉

6．公認スポーツ指導者の認定は、次のとおりとする。

（1）JSPO 及び JSPO 加盟団体等は、第１条に定める趣旨に基づき、養成講習会の受講等により所定のカリキュラムを修了し、以下の資質能力を身に付けた者を、公認スポーツ指導者として認定する。

- スポーツの価値や未来への責任を理解することができる。
- プレーヤーズセンタードの考え方のもとに、暴力やハラスメント等あらゆる反倫理的行為を排除できる。
- 常に学び続けることができる。
- プレーヤーの成長を支援することを通じて、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる。
- 求められる役割に応じて、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導することができる。
- 求められる役割に応じて、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることができる。

（2）公認スポーツ指導者の認定は、別に定める登録規程により、登録手続きが完了した者を対象とする。

（3）公認スポーツ指導者として認定された登録指導者は、JSPO 及び JSPO 加盟団体等の組織内指導者とする。

〈権利〉

7．公認スポーツ指導者は、下記に掲げる権利を有する。

（1）JSPO が発行する情報誌及びスポーツ指導者手帳の受領

（2）JSPO 及び JSPO 加盟団体等が実施する研修事業への参加

（3）公認スポーツ指導者総合保険制度への加入

（4）公認スポーツ指導者公式制定品の購入・使用

（5）「指導者マイページ」のコンテンツ利用

〈責務〉

8．公認スポーツ指導者は、次の責務を負う。

（1）「スポーツ宣言日本」[b]の趣旨を理解した上で、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えること。

（2）プレーヤーズセンタードの考え方のもとに、プレーヤーの望むスポーツ活動を理解し、その成長を支援すること。

（3）プレーヤーや社会に対する自己の影響力を認識し、常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展すること。

（4）JSPO 倫理規程を遵守するとともに、遵守事項に違反する行為（反倫理的行為）に関する調査に誠実に協力すること。

（5）スポーツの価値や未来への責任を理解し、スポーツの力を望ましい社会の実現に活かすために努力すること。

〈処分〉

9．公認スポーツ指導者が JSPO 倫理規程に違反したと認められたときは、JSPO 倫理規程に基づき処分を行うものとし、別に定める基準により処分内容を決定する。

〈マスター称号〉

１０．公認スポーツ指導者としての資質能力が特に優れ、当該領域の指導者の育成・指導等にあたる者として下記により推薦のあった者に対し、JSPO 指導者育成委員会の審査を経て、マスターの称号を付与する。

（1）競技別指導者資格の各領域において、指導者の育成及び指導等にあたる者として、別に定める基準に基づき、中央競技団体から推薦のあった者

（2）アスレティックトレーナーの指導及び育成等にあたる者として、別に定める基準に基づき、JSPO が推薦する者

〈協議会等〉

１１．公認スポーツ指導者相互の連帯と、公認スポーツ指導者としての資質能力の向上及びスポーツ指導活動の促進方策について協議することを目的に、次のスポーツ指導者協議会等を設置し、それぞれの役割に応じた活動方策等について協議する。

（1）全国スポーツ指導者連絡会議

JSPO 指導者育成委員会のもとに設置し、都道府県スポーツ指導者協議会の代表と中央競技団体等の指導者養育成部門の代表で構成する。主に公認スポーツ指導者制度の発展とその円滑な運営等について協議する。

（2）都道府県別スポーツ指導者協議会

都道府県体育・スポーツ協会の指導者育成に関する委員会のもと等に設置し、主に都道府県内における市区町村別・競技別の組織化の推進等について協議する。

---

[b] スポーツ宣言日本：平成 23（2011）年 7 月に創立 100 周年を迎えた JSPO が、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）とともに採択した宣言で、嘉納治五郎初代会長の志を受け継ぎ、新たな 100 年に向けて、21 世紀のスポーツが果たすべき使命を謳ったもの。

（3）加盟団体スポーツドクター代表者協議会

JSPO 指導者育成委員会のもとに設置し、都道府県体育・スポーツ協会及び中央競技団体等のスポーツドクターの代表で構成する。公認スポーツドクター相互の連絡を密にし、主に活動促進、相互研修、情報交換、広報活動の推進等について協議する。

（4）アスレティックトレーナー連絡会議

JSPO 指導者育成委員会のもとに設置し、都道府県体育・スポーツ協会、中央競技団体、プロスポーツ団体等及び JSPO に所属するアスレティックトレーナーの代表で構成する。公認アスレティックトレーナー相互の連絡を密にし、主に活動促進、相互研修、情報交換、広報活動等について協議する。

（5）その他

前各号については、それぞれ別に定める。

〈活動促進〉

１２．JSPO 及び JSPO 加盟団体等は、公認スポーツ指導者の活動促進と社会的信頼の向上を図るため、その資質能力の向上と指導体制の確立、各種活動促進方策の推進に努める。

〈移行措置〉

１３．平成３１年４月１日時点で公認スポーツ指導者として認定されている者については、同日付で自動的にこの制度に移行するものとし、移行に伴う手続き等については、別に定める。

〈変更〉

１４．この制度は、JSPO 指導者育成委員会の承認を経て、JSPO 理事会の決議により変更することができる。

〈附則〉

１．この制度は、昭和６３年８月２４日から施行する。
２．この制度は、平成元年２月８日から施行する。
３．この制度は、平成４年９月１４日から施行する。
４．この制度は、平成５年９月２７日から施行する。
５．この制度は、平成６年７月５日から施行する。
６．この制度は、平成１０年１０月１日から施行する。
７．この制度は、平成１１年６月８日から施行する。
８．この制度は、平成１２年３月７日から施行する。
９．この制度は、平成１２年１０月２０日から施行する。
１０．この制度は、平成１７年４月１日から施行する。
１１．この制度は、平成１７年７月１３日から施行する。
１２．この制度は、平成２０年３月５日から施行する。
１３．この制度は、平成２３年４月１日から施行する。
１４．この制度は、平成２４年１１月７日から施行する。
１５．この制度は、平成２６年７月２３日から施行する。
１６．この制度は、平成３０年４月１日から施行する。
１７．この制度は、平成３１年４月１日から施行する。
１８．この制度は、令和元年６月２１日から施行する。

資料 No. 2

新しい時代にふさわしいコーチングの確立に向けて
～ グッドコーチに向けた「７つの提言」 ～

「コーチング推進コンソーシアム」（以下、「コンソーシアム」という。）は、「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）報告書」（平成 25 年７月）に基づき、オールジャパン体制でコーチング環境の改善・充実に向けた取組を推進するため、我が国を代表するスポーツ関係団体や大学、クラブ、アスリートなどを構成員として設置（平成 26 年６月）されたものです。

我が国においては、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機として、世界に誇れる我が国のコーチングを確立するとともに、2020 年以降も有形無形のレガシーとして、持続可能なスポーツ立国の実現に向けた取組が一層求められています。

そこで、コンソーシアムでは、全ての人々が自発性の下、年齢、性別、障害の有無に関わらず、それぞれの関心・適性等に応じてスポーツを実践する多様な現場でのコーチングを正しい方向へと導くため、「グッドコーチに向けた『７つの提言』」を取りまとめました。

さらには、グローバル化が進展する現代において、国内はもとより、諸外国で活躍するコーチなど、国際社会の中でコーチングに関わる全ての人々にも参考としていただくことを期待しています。

今後、コンソーシアムの構成団体を通じて、７つの提言を広く関係者に呼びかけ、コーチング環境の改善・充実を図っていくこととしています。

平成 27 年３月 13 日
コーチング推進コンソーシアム

グッドコーチに向けた「７つの提言」

スポーツに関わる全ての人々が、「７つの提言」を参考にし、新しい時代にふさわしい、正しいコーチングを実現することを期待します。

1　暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう。

暴力やハラスメントを行使するコーチングからは、グッドプレーヤーは決して生まれないことを深く自覚するとともに、コーチング技術やスポーツ医・科学に立脚したスポーツ指導を実践することを決意し、スポーツの現場における暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くすことが必要です。

2　自らの「人間力」を高めましょう。

コーチングが社会的活動であることを常に自覚し、自己をコントロールしながらプレーヤーの成長をサポートするため、グッドコーチに求められるリーダーシップ、コミュニケーションスキル、論理的思考力、規範意識、忍耐力、克己心等の「人間力」を高めることが必要です。

3　常に学び続けましょう。

自らの経験だけに基づいたコーチングから脱却し、国内外のスポーツを取り巻く環境に対応した効果的なコーチングを実践するため、最新の指導内容や指導法の習得に努め、競技横断的な知識・技能や、例えば、国際コーチング・エクセレンス評議会（ICCE）等におけるコーチングの国際的な情報を収集し、常に学び続けることが必要です。

4　プレーヤーのことを最優先に考えましょう。

プレーヤーの人格及びニーズや資質を尊重し、相互の信頼関係を築き、常に効果的なコミュニケーションにより、スポーツの価値や目的、トレーニング効果等についての共通認識の下、公平なコーチングを行うことが必要です。

5　自立したプレーヤーを育てましょう。

スポーツは、プレーヤーが年齢、性別、障害の有無に関わらず、その適性及び健康状態に応じて、安全に自主的かつ自律的に実践するものであることを自覚し、自ら考え、自ら工夫する、自立したプレーヤーとして育成することが必要です。

6　社会に開かれたコーチングに努めましょう。

コーチング環境を改善・充実するため、プレーヤーを取り巻くコーチ、家族、マネジャー、トレーナー、医師、教員等の様々な関係者（アントラージュ）と課題を共有し、社会に開かれたコーチングを行うことが必要です。

7　コーチの社会的信頼を高めましょう。

新しい時代にふさわしい、正しいコーチングを実践することを通して、スポーツそのものの価値やインテグリティ（高潔性）を高めるとともに、スポーツを通じて社会に貢献する人材を継続して育成・輩出することにより、コーチの社会的な信頼を高めることが必要です。

スポーツ文化を支える公認スポーツ指導者

公益財団法人 日本スポーツ協会

日本スポーツ協会及び加盟団体等は、「スポーツ立国」の実現を目指し、生涯を通じた快適なスポーツライフを構築するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を養成しています。
公認スポーツ指導者は、スポーツ医・科学の知識を活かしてスポーツを「安全に、正しく、楽しく」指導し、その「本質的な楽しさ・素晴らしさ」を伝えます。
日本スポーツ協会では、年齢（発育発達段階）や技能レベル、興味や志向など多様なスポーツ活動に対応するため、指導対象や活動拠点を考慮し、5領域16種類の資格を養成しています。

■日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の種類　※カッコ内は、2018年10月1日付け登録人数

- スポーツ指導基礎資格：スポーツリーダー（372,420名）
- フィットネス資格：ジュニアスポーツ指導員（4,428名）／スポーツプログラマー（3,391名）／フィットネストレーナー（433名）※フィットネストレーナーは現在養成していない
- 競技別指導者資格：指導員（114,005名）／上級指導員（11,924名）／コーチ（19,634名）／上級コーチ（6,174名）／教師（3,234名）／上級教師（1,210名）
- メディカル・コンディショニング資格：スポーツドクター（6,092名）／スポーツデンティスト（351名）／アスレティックトレーナー（3,825名）／スポーツ栄養士（309名）
- マネジメント資格：クラブマネジャー（397名）／アシスタントマネジャー（5,575名）

■日本スポーツ協会HP公認スポーツ指導者登録者数

0

0

日体協の指導者養成を取り巻く状況

公益財団法人 日本スポーツ協会

2005年の制度改定から10余年が経過。社会もスポーツ界も大きく変化している

社会
- さらなるグローバル化（政治・経済・産業・人材等）
- 情報技術の進歩（ネット環境・SNS・端末）
- ダイバーシティの進展（性別・年齢・障がい等）
- 教育観・倫理観等価値観の多様化（学校・社会・親等）

スポーツ界
- スポーツ宣言日本（2011）
- スポーツ指導者による暴力・ハラスメント
- 2020東京オリンピック・パラリンピック開催決定
- スポーツ基本法（2011）／スポーツ基本計画（2012）（基本計画改定/2017）
- 21世紀の国民スポーツ推進方策（2013）
- スポーツ指導者育成事業推進プラン2013
- スポーツ庁設置 2015年10月
- 新しい時代にふさわしいコーチング　スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）

スポーツ指導者育成事業推進プラン2013（指導者育成専門委員会）
- 有資格指導者の拡充（若年層・女性）
- 指導者の資質の向上
- 指導者の社会的価値の向上
- 有資格指導者の活動の場の拡充

➢カリキュラム、受講形態の見直し
➢わかりやすい制度への見直し
➢役割と使命の再確認
＊「日本体育協会スポーツ憲章」改訂

モデル・コア・カリキュラムの作成（コーチング・イノベーション推進事業）
- コーチが育成過程において確実に習得すべきカリキュラムの明確化
- 知識・技能だけではなく、思考・態度・行動・知識・技能を身につける
- グッドコーチに求められる資質能力を身につけるための学びの手法の検討
- 大学におけるコーチ育成カリキュラム
- 公認スポーツ指導者養成共通科目カリキュラムの改訂

タスクフォース報告書からの提言等
- スポーツ活動中における暴力根絶
- 新しい時代にふさわしいコーチング
- コーチが得た知識や技能をコーチング現場で活用できていない
- シミュレーションやワークショップ、OJTといった手法の導入
- 継続的かつ競技横断的な学習ができるコーチ育成プログラムの開発

「新しい時代にふさわしいコーチング」が求められている。

＊「新しい時代にふさわしいコーチング」
「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるもの

「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）報告書」

1

1

グッドコーチ像

公益財団法人 日本スポーツ協会

人物像	キーワード
スポーツを愛し、その意義と価値を自覚し、尊重し、表現できる人	人が好き、スポーツが好き、スポーツと意義と価値の理解
グッドプレーヤーを育成することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることができる人	プレーヤーやスポーツの未来に責任を持つ
プレーヤーの自立やパフォーマンスの向上を支援するために、常に自身を振り返りながら学び続けることができる人	課題解決、自立支援、プレーヤーのニーズ充足、卓越した専門知識(スポーツ教養含)、内省、継続した自己研鑽
いかなる状況においても、前向きかつ直向きに取りくみながら、プレーヤーと共に成長することができる人	逆境・困難に打ち克つ力、ポジティブシンキング、真摯さ、継続性、同情・共感、対象に合わせたコーチング
プレーヤーの生涯を通じた人間的成長を長期的視点で支援することができる人	プレーヤーズファースト、プレーヤーのキャリア形成・人間的成長、中長期的視点、
いかなる暴力やハラスメントも行使・容認せず、プレーヤーの権利や尊厳、人格を尊重し、公平に接することができる人	暴力根絶、相互尊敬(リスペクト)、公平・公正さ
プレーヤーが、社会の一員であることを自覚し、模範となる態度・行動をとれるよう導くことができる人	社会の中の自己認識、社会規範・モラルの理解・遵守、暴力根絶意識のプレーヤーへの伝達
プレーヤーやプレーヤーを支援する関係者(アントラージュ)が、お互いに感謝・信頼し合い、かつ協力・協働・協調できる環境をつくることができる人	社会との関係・環境構築、チームプレー、感謝・信頼、協力・協働・協調

2

2

グッドコーチに求められる資質能力

公益財団法人 日本スポーツ協会

(思考・判断、態度・行動、知識・技能)

人間力(思考・判断):自分自身のコーチングを形づくる中心にあるもの
人間力(態度・行動):プレーヤーや社会との良好な関係を築くために必要な資質能力
知識・技能(スポーツ知識・技能):スポーツ指導を行ううえで必要となるスポーツ科学の知識・技能

人間力	思考・判断		スポーツの意義と価値の理解、コーチングの理念・哲学(人が好き、スポーツが好き、スポーツの意義と価値の理解、プレーヤーやスポーツの未来に責任を持つ、社会規範、スポーツの高潔性)
	態度・行動	対自分力	学び続ける姿勢(自己研鑽)、前向きな思考・行動、くじけない心、課題発見力、課題解決力、自己統制、内省、社会規範
		対他者力(人、社会)	基本的人権の尊重、相互理解、プレーヤーズ・ファースト、暴力・ハラスメントの根絶、コミュニケーションスキル、マネジメントスキル、目標設定、協力・協調・協働、長期的視点、関係構築力
知識・技能	スポーツ知識・技能	共通	あらゆるコーチング現場に共通するスポーツ科学
		専門	個々のコーチング現場別(競技別、年代別、レベル別、障がいの有無など)に求められる専門知識・技能

【人間力】 内閣府「人間力戦略研究会(平成15年)」の定義
社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力
- 知的能力的要素:論理的思考力、創造力
- 社会・対人関係力的要素:コミュニケーションスキル、リーダーシップ、規範意識
- 自己制御的要素:意欲、忍耐力、自分らしい生き方や成功を追及する力

3

3

モデル・コア・カリキュラム

公益財団法人 日本スポーツ協会

資質能力区分		領域	主な内容	必要最低時間数 基礎	応用実践	計
人間力	思考・判断	コーチングの理念・哲学	プレーヤーとともに学び続けるコーチ コーチング及びコーチとは コーチに求められる資質能力 スポーツの意義と価値 コーチの倫理観・規範意識 コーチの役割と使命(職務)	9h	18h	27h
		計		9h	18h	27h
	態度・行動	対自分力	多様な思考法 コーチのセルフ・コントロール コーチのキャリア・デザイン	6h	12h	18h
		対他者力	コミュニケーション 人的環境(関係者との信頼関係)の構築 プレーヤーのキャリア・デザイン	6h	12h	18h
		計		12h	24h	36h
知識・技能	共通	トレーニング科学	スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 体力トレーニング 技術トレーニング メンタルトレーニング	9h	18h	27h
		スポーツ医・科学	スポーツと健康 外傷と障害の予防 救急処置 アンチ・ドーピング スポーツと栄養 スポーツの心理	9h	18h	27h
	専門	現場における理解と対応	ライフステージに応じたコーチング プレーヤーの特性に応じたコーチング コーチングにおけるリスクマネジメント クラブ・チームの運営と事業 コーチング現場の特徴	6h	12h	18h
		計		24h	48h	72h
合計				45h	90h	135h
実習	現場実習		コーチングの実践と評価	5日 10h	20日 40h	50h

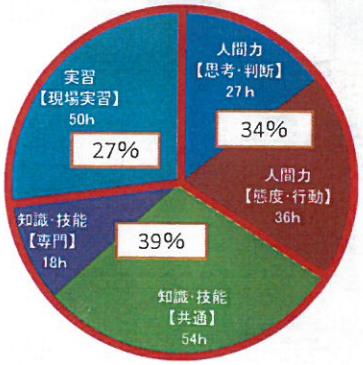
4

4

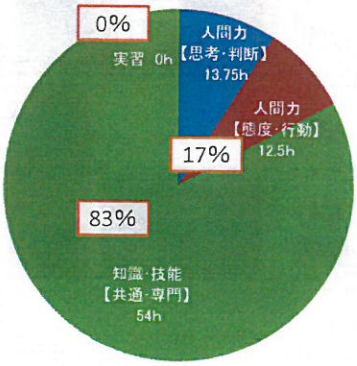
モデル・コア・カリキュラムと日本スポーツ協会 共通科目Ⅰ～Ⅲカリキュラム(現行)の比較

公益財団法人 日本スポーツ協会

人間力	思考・判断	27h	34%
	態度・行動	36h	
知識・技能	一般共通	54h	39%
	専門共通	18h	
実習	現場実習	50h	27%



人間力	思考・判断	13.75h	17%
	態度・行動	12.5h	
知識・技能	一般共通	126.25h	83%
	専門共通		
実習	現場実習	0h	0%



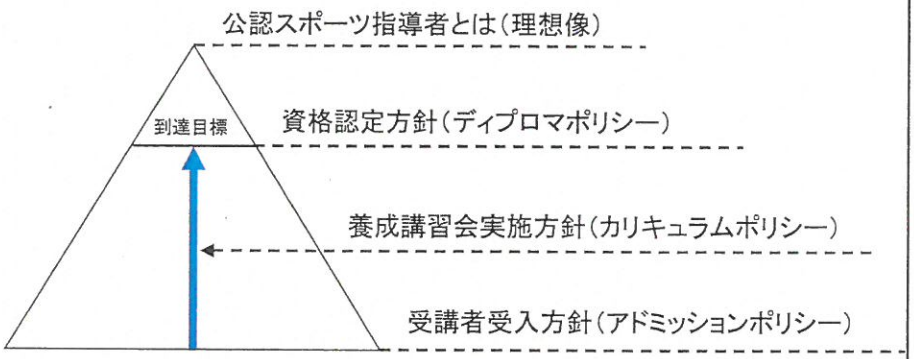
5

5

公認スポーツ指導者育成の３つの方針（３ポリシー）

公益財団法人 日本スポーツ協会

日本スポーツ協会と加盟団体等が行う指導者育成に関して定める方針（ポリシー）。受講者受入方針、養成講習会実施方針、資格認定方針の3つの方針を平易な表現でまとめることで、本会と加盟団体等のあらゆる関係者や社会、受講者に対し、本会と加盟団体等の考え方が明確になるとともに、振り返りや見直し（PDCAサイクル）の拠り所となる。

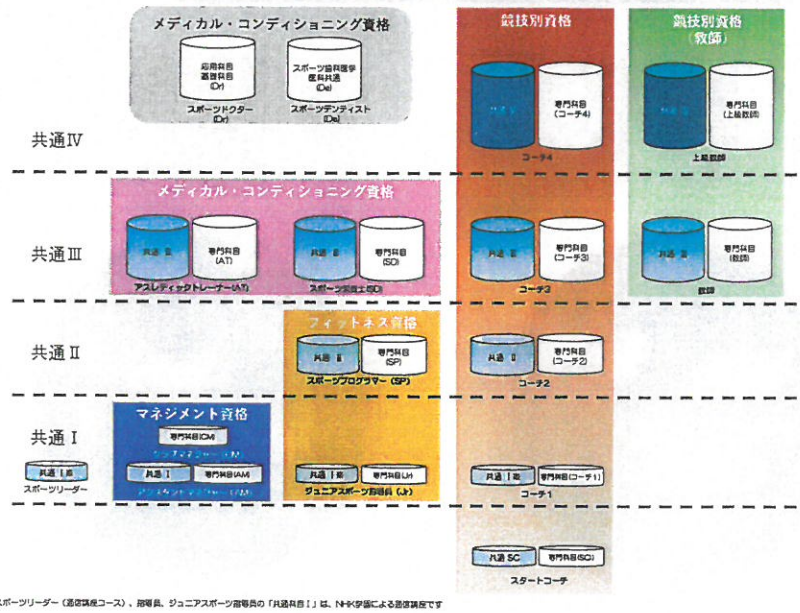


6

6

公認スポーツ指導者カリキュラム相関図

公益財団法人 日本スポーツ協会



※スポーツリーダー（基礎講座コース）、指導員、ジュニアスポーツ指導員の「共通科目Ⅰ」は、NAS学園による基礎講座です

7

ロードマップ

公益財団法人 日本スポーツ協会

年度	共通科目Ⅰ	共通科目Ⅱ	共通科目Ⅲ	共通科目Ⅳ
平成30年度 現行制度	現行制度による講習会			
平成31年度 新制度 現カリ／新カリ	現行制度による講習会（現カリ）	モデル・コア・カリキュラムを用いたアクティブラーニング形態の講習会（新カリ）		
令和2年度 新制度 新カリ	モデル・コア・カリキュラムを用いた通信講座（新カリ）			

※現カリ＝現行のカリキュラム
※新カリ＝モデル・コア・カリキュラムを基に作成するカリキュラム

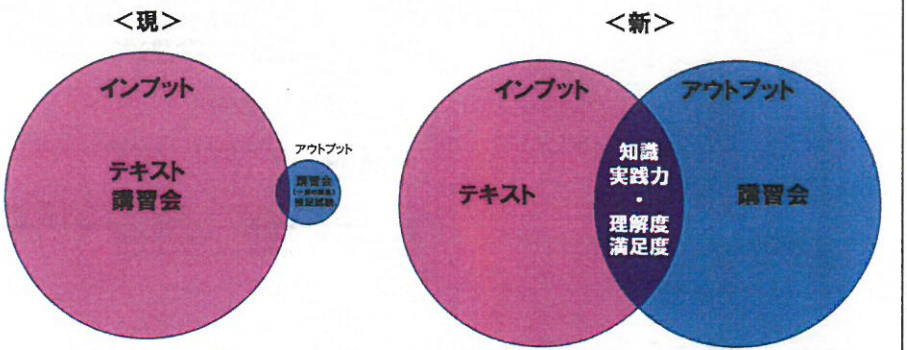
※新カリにおける共通科目Ⅰの学習効果をより高めるため、共通科目Ⅰの集合講習会実施の方法については、今後、大学との連携を模索したい。

8

8

公認スポーツ指導者養成講習会
新共通科目カリキュラムのコンセプト

公益財団法人 日本スポーツ協会



全てのスポーツ指導者に求められる知識

①現場で活用できる最低限の「知識」と「実践力」の修得
②これまで以上に高い理解度・満足度が得られる内容の提供

9

9

現行からの変更点

公益財団法人 日本スポーツ協会

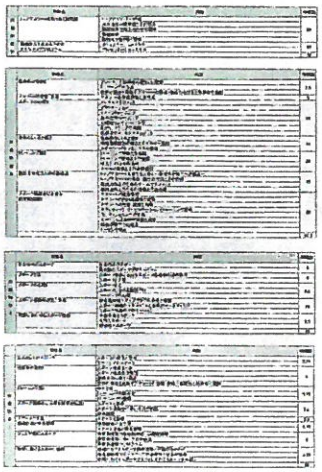
①新共通科目カリキュラム
②カリキュラム時間数
③講習会の流れ
④共通科目課程
⑤講師
⑥評価
⑦リファレンスブック（テキスト）

10

変更点① 新共通科目カリキュラム

公益財団法人 日本スポーツ協会

現カリキュラム



新カリキュラム

「コーチ育成のためのモデル・コア・カリキュラム」（MCC）の資質能力区分に準ずる形で、科目名を整理・配置換えしました

1.グッドコーチ（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者）に求められる人間力
(1)コーチングを理解しよう
①コーチングおよびコーチとは
②スポーツの意義と価値
③コーチに求められる知識とスキル
(2)対他者力を磨こう
①リーダーシップ
②信頼関係構築におけるコミュニケーションの重要性
(3)対自己力を磨こう
①コーチの学びとセルフマネジメント

2.グッドコーチ（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者）に求められる医・科学的知識
(1)安全なスポーツ環境の構築
(2)スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系
(3)体力のトレーニング
(4)スキルのトレーニング
(5)心のはたらきと向き合い方
(6)スポーツと栄養
(7)スポーツに関連する医学的知識
(8)アンチ・ドーピング

3.現場・環境に応じたコーチング
(1)コーチング環境の特徴
(2)コーチングにおけるリスクマネジメント
(3)ハイパフォーマンスアスリートに対するコーチング
(4)スポーツ組織のマネジメント
(5)アントラージュの一員としてコーチングを理解する

11

11

変更点① 新共通科目カリキュラム

公益財団法人 日本スポーツ協会

現カリキュラム

科目の区分によって、
学ぶ科目名（項目名）が異なる

新カリキュラム

科目の区分に関わらず、学ぶ項目名は共通
【区分によって学ぶ内容の深さ・量が異なる】

↓

全ての受講者が資質能力区分を一通り学習

1.グッドコーチ（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者）に求められる人間力
(1)コーチングを理解しよう
①コーチングおよびコーチとは
②スポーツの意義と価値
③コーチに求められる知識とスキル
(2)対象者力を磨こう
①リーダーシップ
②信頼関係構築におけるコミュニケーションの重要性
(3)対自己力を磨こう
①コーチの学びとセルフマネジメント

2.グッドコーチ（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者）に求められる医・科学的知識
(1)安全なスポーツ環境の構築
(2)スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系
(3)体力のトレーニング
(4)スキルのトレーニング
(5)心のはたらきと向き合い方
(6)スポーツと栄養
(7)スポーツに関連する医学的知識
(8)アンチ・ドーピング

3.現場・環境に応じたコーチング
(1)コーチング環境の特徴
(2)コーチングにおけるリスクマネジメント
(3)ハイパフォーマンスアスリートに対するコーチング
(4)スポーツ組織のマネジメント
(5)アントラージュの一員としてコーチングを理解する

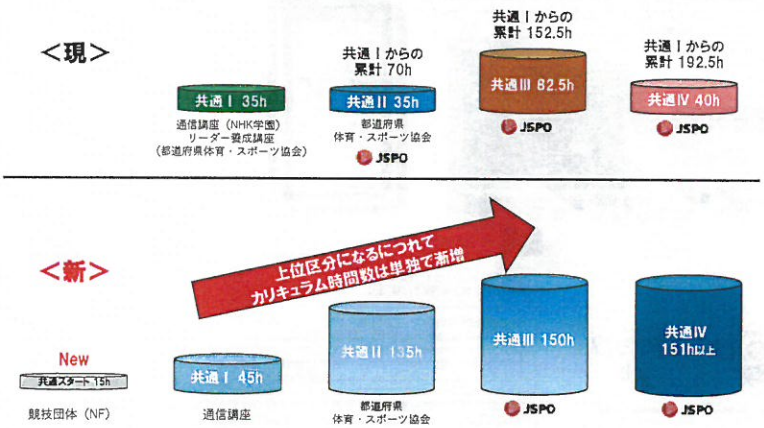
※共通Ⅰの簡易版（コーチングと安全管理が中心）

12

変更点② カリキュラム時間数

公益財団法人 日本スポーツ協会

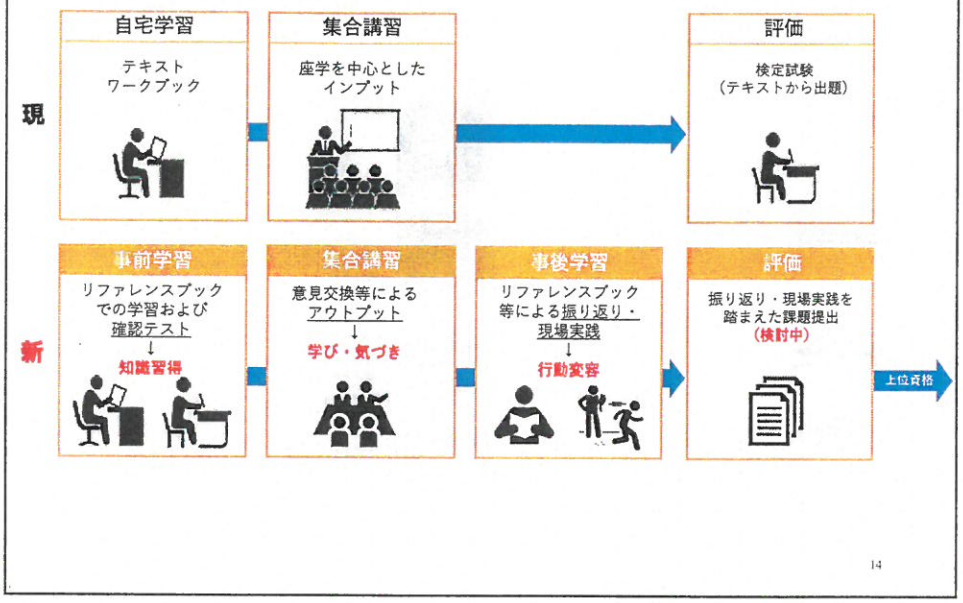
カリキュラム時間数の漸増



13

変更点③ 講習会の流れ

公益財団法人 日本スポーツ協会



14

変更点④-1 共通科目課程 事前学習

公益財団法人 日本スポーツ協会

イメージ画像

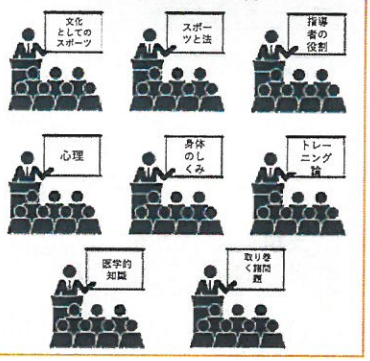
15

変更点④-2 共通科目課程 集合講習会

公益財団法人 日本スポーツ協会

集合講習では分野横断的なテーマを取り扱い
アウトプット中心とした学び・振り返りの場とする

＜現＞
集合講習
各分野の講師がそれぞれ
テキストに沿って講義



＜新＞
集合講習

コーチングの分野を中心に
横断的なテーマを設定(次スライド参照)
＜事前学習＞
基本知識の修得（特に医・科学的知識）

＜集合講習＞
知識の修得というよりも、現場での活用を想定した受講者同士による意見交換等（二律背反によるジレンマトレーニング、ケーススタディ、専門家との連携等）を通じて、自身の考え方・指導方法について学び・振り返る場とする。

受講者 50名～100名／会場
講師 メイン1名＋1～2名
※受講者数による

16

変更点④-3 共通科目課程 事後課題

公益財団法人 日本スポーツ協会

事後課題レポート(2018年度共通Ⅲ)

＜集合講習会終了後1週間以内に取り組むこと＞
・共通科目Ⅲ集合講習会終了時に設定した「1か月後に自分がどのような姿になっていたいか（自身のパーソナルゴール）」

＜集合講習会終了後1カ月間の事後学習を踏まえて取り組むこと＞
（1）講習会後1か月間の取組について(①～④合わせて、400文字以上)
①うまくいった取組、またその理由
②うまくいかなかった取組、またその理由
③うまくいかなかった取組をどうすれば改善できたと考えるか
④この1カ月間で他者（指導対象者、同僚、チームスタッフ、保護者、クライアント等）からあなたの変化について、何か声かけがありましたか？どんな声かけでしたか？
（2）パーソナルゴール達成に向けて、新たに発見できた課題について(200文字以上)
（3）この1カ月の取組を踏まえて、集合講習会で作成した成長計画をバージョンアップさせるとしたらどのような修正を行うか。なお、最後の１文に必ず「次の1カ月後のパーソナルゴール」を記載すること。（200文字以上）

評価の観点

- ●文字数（各400文字or200文字以上）→超えていなかった場合、再提出
- ●設問の回答に論理的なつながりがある→つながっていない場合、再提出
- ●的外れな内容を記載していないか→記載できていない場合、再提出

学びを引き出すフィードバックをお願いします

17

変更点⑤ 集合講習会講師

公益財団法人 日本スポーツ協会

集合講習会では
アクティブラーニングを主体とした学びの場を提供

共通科目の講師を日本スポーツ協会で養成

期日	会場
第1回：10月5日（土）～6日（日）2日間	JAPAN OLYMPIC SPORT SQURAE
第2回：11月30日（土）～12月1日（日）2日間	JAPAN OLYMPIC SPORT SQURAE

募集人数

100名

認定基準

(1)共通科目Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ集合講習会受講者の主体的な学びを支援するスキルを身につけている
(2)共通科目Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ集合講習会受講者を基準に基づき適切に評価することができる。
(3)コーチデベロッパーとしての自身の省察ができる。
(4)JSPO公認スポーツ指導者制度について正しく理解ができている。
(5)JSPOが目指すグッドコーチ像について正しく理解ができている。
(6)JSPOが実施する公認スポーツ指導者養成講習会について正しく理解ができている

18

18

変更点⑥ 評価

公益財団法人 日本スポーツ協会

事前学習時の「知識確認テスト」（現行の検定試験を踏襲）に加え、
集合講習後の振り返り・実践を踏まえた「課題」で評価する

現カリキュラム

テキストの内容を問う
検定試験（四択問題）で評価
2月：全国7会場／3月：東京・大阪

- 6割以上で合格
- テキストからのみ出題
- 保健体育の教員免許保有者は試験のみ（集合講習免除）

新カリキュラム

【事前学習】
知識確認テスト
（各自）
※リファレンスブックでの学習

【集合講習後】
課題提出

評価基準は検討中
※ワークブック（シート）等の
作成についても検討する

19

変更点⑥ 評価

公益財団法人 日本スポーツ協会

公認スポーツ指導者養成講習会　新・共通科目Ⅲの評価に係る流れ

受講申込	事前学習（~集合講習参加1週間前まで）	集合講習	事後学習（集合講習参加後1か月間／提出はその2週間後まで）
誓約	オンラインテスト（知識習得）	アウトプット	現場実践・振り返り
誓約の確認 ・反倫理的行為を行わないことを確認	**知識取得状況の確認** ・受講者はリファレンスブックにより自己学習 ・最低限の知識を保有していることを確認 ・四肢択一／自動採点／繰り返し受験可（正答率6割以上で合格）	**受講態度の確認** ・評価者：コーチデベロッパー ・受講者が以下に該当するような受講態度をとった場合は注意し、改善されない場合は「不合格」とする ✓ 学ぶ姿勢がみられない ✓ 他の受講者の学びを阻害する ✓ 講習運営に非協力的な言動をとる ・受講者に係る気付きも可能であればメモする **成長計画の確認** ・評価者：コーチデベロッパー ・受講者が作成した成長計画の内容が基準を満たしているか集合講習終了時までに評価する ・基準を満たさない場合は、講習終了後2週間以内にオンラインで再提出するように指示する	**行動変容の確認** ・受講者は自身の成長計画のうち直近の1か月間について実際の計画に沿って実践を行う ・受講者は実践により得られたポートフォリオ（記録や収集資料など）を凝縮し、以下内容を含んだレポート（A4用紙1枚程度）をオンラインで提出する ✓ 実践概要 ✓ 自己評価 ✓ 改善策 ・評価者：コーチデベロッパー ※当該集合講習を担当したCD以外も可 ・レポートに上記内容が含まれ、学び続ける意欲が読み取れるかオンラインで評価する ・評価結果とともに、改善点やアドバイスをフィードバックする ・上記内容が読み取れない場合は、2週間以内に再提出するように指示する

20

変更点⑦ テキスト（リファレンスブック）

公益財団法人 日本スポーツ協会

従来の区分別テキストを一冊に集約した「リファレンスブック」を作製する

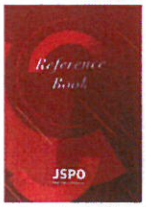
＜現＞
現テキスト

科目区分によって学ぶ科目名（項目名）が異なるためテキストも分かれている

合計560ページ

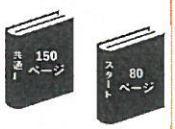
＜新＞
リファレンスブック

科目の区分に関わらず学ぶ項目名は共通であるため、知識を獲得するための**リファレンスブックは基本的に1冊に集約**（Full Ver.）



内容は現テキストを踏襲

＜簡易版＞



カリキュラム時間数の少ない「共通Ⅰ」、「共通スタート」用にFull Ver.から簡易版を別途作成

※集合講習会後も適宜振り返り、参照してもらえるものを目指し「テキスト」から「リファレンスブック」に名称を改める

21

21

資料 No. 4

スキー・スノーボードコーチ１案
資格概要

主催			公益財団法人日本スポーツ協会 公益財団法人全日本スキー連盟
養成目的			地域スキークラブ（スポーツ少年団など）やサークルにおいて、初心者や子どもたちを対象にスキー・スノーボードの基礎的指導にあたる指導者を養成する。
役割			発育発達期の子どもたちや初心者に対し、指導者育成カリキュラムに則り、様々な運動経験と遊びを通した身体づくりと動きづくりを主眼においた指導にあたる。
養成講習会に係る内容	受講条件		受講年度の4月1日に満20歳以上で、全日本スキー連盟会員登録をしていること。
	受講科目	共通科目	共通科目Ⅰ（45h）
		専門科目	SAJコーチ1専門科目（20h） ※別紙カリキュラム表参照
	受講料	共通科目	共通科目Ⅰ：19800円（税込）※別途リファレンスブック代：1500円（税抜）
		専門科目	専門科目： 20000円（税込）
	実施方法	共通科目	別に定める共通科目実施要領に基づき日本スポーツ協会が実施する
		専門科目	■講習会 カリキュラムに基づき集合講習と自宅学習にて行う ■検定試験 筆記試験および専門科目講習会の内容を含んだレポート提出を検定試験とする。 ■審査 全日本スキー連盟担当部署にて審査を行う。 ■免除要件 SAJC級コーチ取得取得者は専門科目免除とする。
登録に係る内容	登録料（4年間）		基本登録料：10,000円
			資格別登録料： 円
			初期登録手数料（初回登録時のみ）：3,000円
	更新登録要件		資格有効期限の6か月前までに、最低1回は、(公財)全日本スキー連盟が定める研修会又はJSPO(都道府県体育協会が実施する研修会を含む)が実施する(認める)研修を受けなければならない。
特記事項			

公認スキー・スノーボードコーチ1

区分	カリキュラム内容		時間数		
	No.	科目	集合	その他	計
① 基礎理論	①	スノースポーツ(競技)の歴史	2 h	4 h	6 h
	②	SAJの組織体制と事業紹介			
	③	競技別強化拠点			
	④	SAJが考える望ましい指導者像		1 h	1 h
	⑤	指導計画とその実行		2 h	2 h
	⑥	ゲレンデ、スポーツ施設における安全管理		2 h	2 h
	⑦	スキー・スノーボードにおけるアンチドーピングとは		1 h	1 h
	⑧	ICRの基礎・SAJルール(国体ルール等)		1 h	1 h
	⑨	競技規則と運営		1 h	1 h
	⑩	ケガをしない体づくり		2 h	2 h
	小 計		2 h	14 h	16h
② 実技	①	救急救命法、応急処置	2 h		2 h
	②	基礎エクササイズ	2 h		2 h
	小 計		4 h	0 h	4 h
			6h	14h	20h

スキー・スノーボードコーチ2　案
資格概要

主催			公益財団法人日本スポーツ協会 公益財団法人全日本スキー連盟
養成目的			競技者育成プログラムに基づき、都道府県内レベルで競技者の発掘・育成とその競技力向上に貢献する指導者を養成する。
役割			競技者育成プログラムの指針に基づいた指導にあたるとともに、広域エリア内の有望競技者の強化指導にあたる。
養成講習会に係る内容	受講条件		・受講年度の4月1日に満20歳以上で、全日本スキー連盟会員登録をしていること。・・コーチ1を保有していること、もしくはSAJC級コーチを取得していること
	受講科目	共通科目	共通科目Ⅱ（135h）
		専門科目	SAJ専門科目（40h）　※別紙カリキュラム表参照
	受講料	共通科目	共通科目Ⅱ：16000円（税抜）※別途リファレンスブック代：3000円（税抜）
		専門科目	専門科目：　40000円（税込）
	実施方法	共通科目	別に定める共通科目実施要領に基づき日本スポーツ協会が実施する
		専門科目	■講習会 カリキュラムに基づき集合講習と自宅学習にて行う ■検定試験　基 礎理論と各専門科目カテゴリーにて筆記試験および講習会の内容を含んだレポート提出を検定試験とする。 ■審査 全日本スキー連盟担当部署にて審査を行う。 ■免除要件
登録に係る内容	登録料（4年間）		基本登録料：10,000円
			資格別登録料：　　円
			初期登録手数料（初回登録時のみ）：3,000円
	更新登録要件		資格有効期限の6か月前までに、最低1回は、(公財)全日本スキー連盟が定める研修会又はJSPO(都道府県体育協会が実施する研修会を含む)が実施する(認める)研修を受けなければならない。
特記事項			

公認スキー・スノーボードコーチ2

区分	カリキュラム内容		時間数		
	No.	科目	集合	その他	計
① 基礎理論	①	SAJ指導者養成システム	1 h		1 h
	②	スポーツ基本法		1 h	1 h
	③	スポーツ現場のトラブルとその対応		1 h	1 h
	④	ミーティングの方法	1 h		1 h
	⑤	発育発達期における身体的特徴		1 h	1 h
	⑥	スキー・スノーボードにおけるスポーツバイオメカニクスの基礎		1 h	1 h
	⑦	発育発達期に多い傷害と救急処置		1 h	1 h
	⑧	発育発達期の栄養		1 h	1 h
	⑨	発育発達期の心理的特徴		1 h	1 h
	⑩	競技コースでの安全管理(国内)		1 h	1 h
	⑪	ICR(FIS,COC,NCルール)		2 h	2 h
	⑫	国内大会エントリーについて		2 h	2 h
	⑬	トレーニング計画と測定評価		2 h	2 h
	⑭	ベーシックトレーニング	2 h		2 h
	⑮	中学生を対象としたストレングストレーニング	2 h		2 h
	小 計		6 h	14 h	20h
② JP/NC/CC専用	①	強化戦略プラン(ユース期)*種目ごと実施	1 h		1 h
	②	体力測定と評価	1.5 h		1.5 h
	③	ストレングストレーニング	1.5 h		1.5 h
	④	コーディネーショントレーニング	1.5 h		1.5 h
	⑤	コンディショニング、ストレッチング	1 h		1 h
	⑥	イミテーションドリル *種目ごと実施	1 h		1 h
	⑦	トレーニング計画、トレーニングと競技会の評価 *	1.5 h		1.5 h
	⑧	雪上技能練習 *	3 h		3 h
	⑨	ビデオフィードバック *種目ごと実施	1 h		1 h
	⑩	トレーニング計画 *種目ごと実施		1 h	1 h
	⑪	トレーニング方法と指導 *種目ごと実施		1.5h	1.5h
	⑫	トレーニング評価 *種目ごと実施		1.5h	1.5h
	⑬	競技会評価 *種目ごと実施		1.5h	1.5h
	⑭	測定評価 *種目ごと実施		1.5h	1.5h
	小 計		13 h	7 h	20 h
② AL/SX専用	①	アルペン、スキークロスに必要滑走技術	5 h		0h
	②	アルペン、スキークロスに必要な体力	2 h		2 h
	③	怪我予防とストレッチ	1 h		1 h
	④	マテリアル管理方法	2 h		2 h
	⑤	ゲートセット方法	2 h		2 h
	⑥	安全管理と応急処置	1 h		1 h
	⑦	メンタルトレーニング	1 h		1 h
	⑧	目標設定と指導計画の作成		2 h	2 h
	⑨	コーチングの実践		2 h	2 h
	⑩	コーチングの評価		1 h	1 h
	⑪	コーチングの反省と今後の対策		1 h	1 h
	小 計		14 h	6 h	20 h
② AE/MO/FK専用	①	フリースタイルスキーに必要な滑走技術	4 h		0h
	②	体力トレーニング	4 h		4 h
	③	けが予防のためのストレッチング	2 h		2 h
	④	トランポリン技術	2 h		2 h
	⑤	マテリアル管理方法	2 h		2 h
	⑥	目標設定と指導計画の作成		2 h	2 h
	⑦	コーチングの実践		2 h	2 h
	⑧	自分のコーチングの振り返りと評価		2 h	2 h
	小 計		14 h	6 h	20 h
② SB専用	①	スポーツの価値	1.5 h		0h
	②	一貫指導のマネジメント	1 h		1 h
	③	コーチング	1.5 h		0 h
	④	滑走理論の正しい理解と技術指導	2.5 h		0 h
	⑤	用具の理解、適切な選択と整備	1.5 h		0 h
	⑥	競技ルールの理解	3 h		3 h
	⑦	滑走理論の正しい理解と技術指導		4 h	4 h
	⑧	競技ルールの理解		5 h	5 h
	小 計		11 h	9 h	20 h
			40h		40h